

IV 高齢者のいる世帯の状況

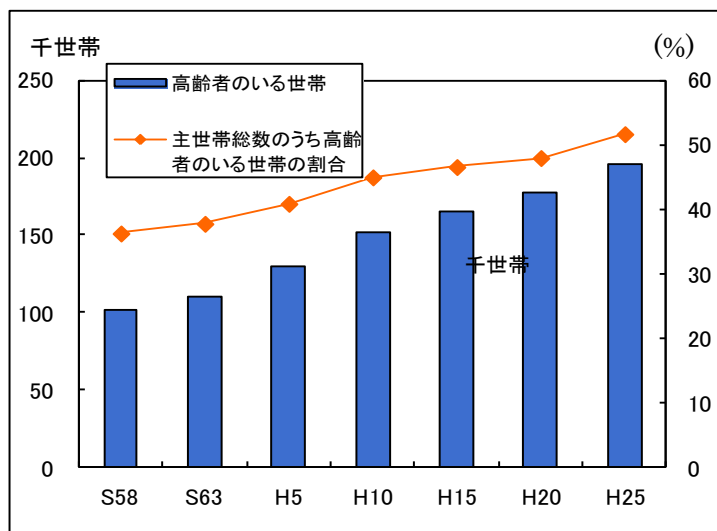
ここ（IV）では、65歳以上の世帯員がいる主世帯を「高齢者のいる世帯」とし、その世帯を次の三つの型に区分する。

- ① 高齢単身世帯・・・・・・・・・・65歳以上の単身の主世帯
- ② 高齢者のいる夫婦のみの世帯・・夫婦とも又はいずれか一方が65歳以上の夫婦一組のみの主世帯
- ③ 高齢者のいるその他の世帯・・高齢者のいる世帯から上記の二つを除いたもの（高齢者と、生計を共にするその他の世帯員で構成される主世帯）

1 世帯数の推移

高齢者のいる世帯は、主世帯全体の半数以上

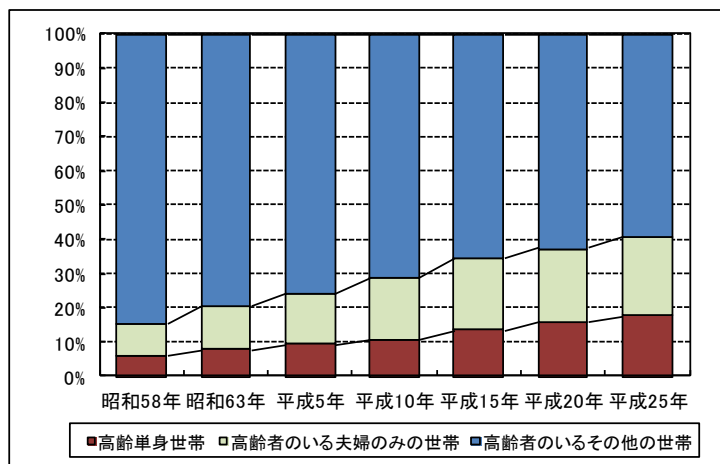
図 18 高齢者のいる世帯の推移(富山県:昭和 58 年～平成 25 年)



高齢者のいる世帯は、昭和 58 年には 101,500 世帯で主世帯全体の 36.3%だったが、平成 25 年には 196,300 世帯となり主世帯全体の半数以上(51.7%)を占めている。

小規模化が進む高齢者のいる世帯

図 19 高齢者のいる世帯の型別割合（昭和 58 年～平成 25 年）



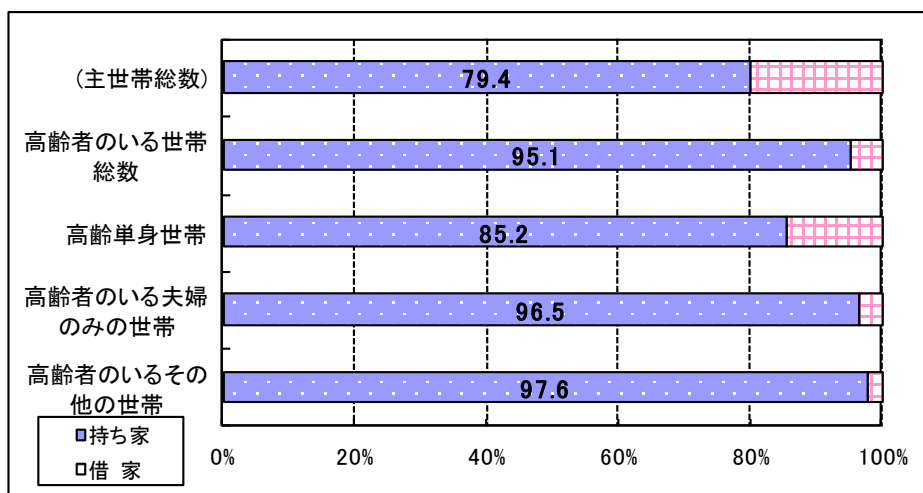
高齢者のいる世帯を型別にみると、平成 25 年では、高齢単身世帯が 35,100 世帯、高齢者のいる夫婦のみの世帯が 45,200 世帯、高齢者のいるその他の世帯が 116,000 世帯と高齢者のいるその他の世帯の割合が最も大きい。高齢単身世帯と高齢者のいる夫婦のみの世帯の割合が上昇しており、世帯は多人数同居型から小規模型へとウェイトが移りつつある。

平成 20 年との比較では、高齢単身世帯が 24.9%増、65 歳以上の夫婦のみの世帯が 18.9%増、高齢者のいるその他の世帯が 4.4%増となっており、高齢単身世帯の増加率が最も高い。

2 住宅の所有と建て方の関係

高齢者のいる世帯は 95%が持ち家に居住

図 20 高齢者のいる世帯の住宅の所有関係別割合（富山県：平成 25 年）

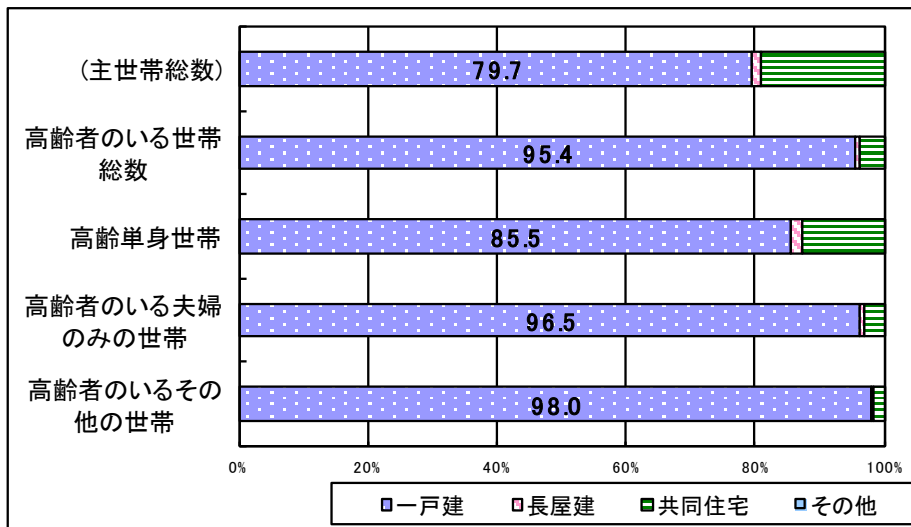


高齢者のいる世帯について住宅の所有の関係別割合をみると（図 20）、持ち家が 95.1%、借家が 4.7%となっており、主世帯総数（持ち家 79.4%、借家 19.7%）に比較し、持ち家の割合が高くなっている。

このうち高齢者のいる夫婦世帯では 96.5%、高齢者のいるその他の世帯では 97.6%が持ち家に居住している。一方、高齢単身世帯の持ち家の割合は 85.2%と低くなっている。

高齢者のいる世帯は9割以上が一戸建に居住

図 21 高齢者のいる世帯の住宅の建て方別割合(富山県:平成 25 年)



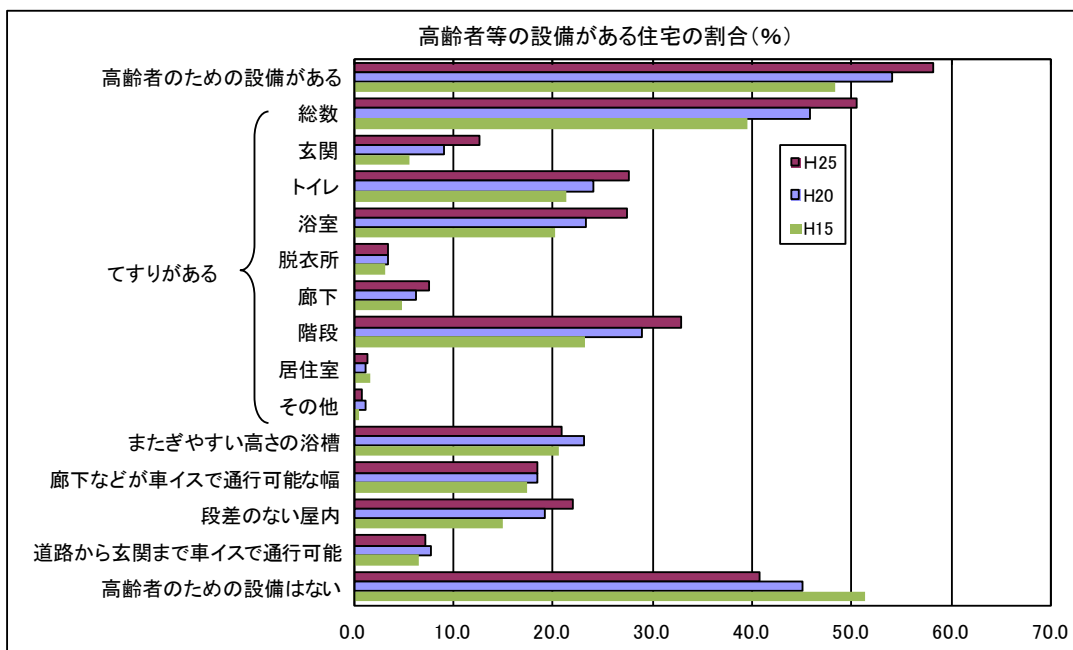
住宅の建て方別割合では(図 21)、高齢者のいる世帯は、一戸建が 95.4%、長屋建が 0.7%、共同住宅が 3.7%、その他が 0.2%となっており、主世帯全体(それぞれ 79.7%、1.3%、18.8%、0.2%)に比べ、一戸建の割合が高くなっている。

このうち高齢単身世帯では、共同住宅の割合が 12.5%と、高齢者のいる夫婦世帯や高齢者のいるその他の世帯に比べ高くなっている。

3 高齢者等のための設備工事

高齢者等のための設備がある住宅は 58%

図 22 高齢者のための設備がある住宅の割合(富山県)



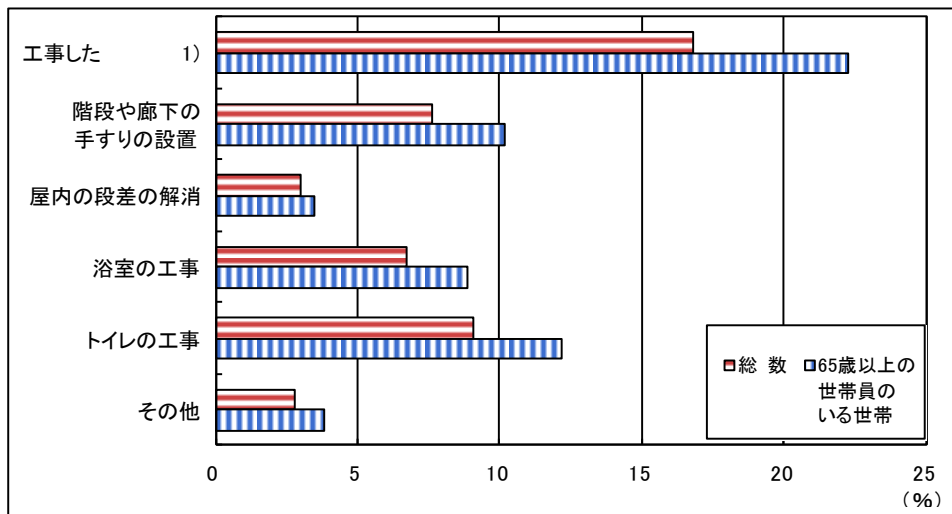
高齢者等のための設備のある住宅の割合は、平成 15 年では 48.3%、20 年では 54.1%で、25 年には 58.3% (221,300 戸) と次第に上昇している。(図 22)

設備別では、「手すりがある」は 50.5%、「またぎやすい高さの浴槽」は 20.8%、「廊下などが車いすで通行可能な幅」は 18.5%、「段差のない屋内」は 22.0%、「道路から玄関まで車いすで通行可能」は 7.2%などとなっている。

また、手すりの設置場所では、「トイレ」、「階段」、「浴室」が高い割合となっている。

平成 21 年以降に高齢者等のための設備工事を行った世帯は 16.8%

図 23 高齢者等のための設備の工事状況(平成 21 年以降、持ち家に居住する世帯:富山県、平成 25 年)



持ち家に居住する主世帯の平成 21 年以降の高齢者などのための設備の工事(将来の備えを含む。)の状況を見ると(図 23)、工事を行った世帯が 50,600 世帯で 16.8%となっており、高齢者のいる世帯に限ると、工事を行ったのは 41,600 世帯で 22.3%となっている。

工事を行った世帯について工事の箇所別内訳を見ると、トイレの和式から洋式への変更、温水洗浄便座の設置などのトイレの工事を行った世帯が 9.1%と最も高く、次いで階段や廊下の手すりの設置、浴室の工事などとなっている。

高齢者のいる世帯においてもトイレの工事を行った世帯が 12.2%と最も高く、次いで階段や廊下の手すりの設置、浴室の工事などとなっている。

4 高齢者が住んでいる場所

近くに子が住んでいる高齢者世帯の割合が上昇

図 24 別世帯の子が住んでいる場所別割合（不詳除く）平成 15、20、25 年
【高齢单身普通世帯】

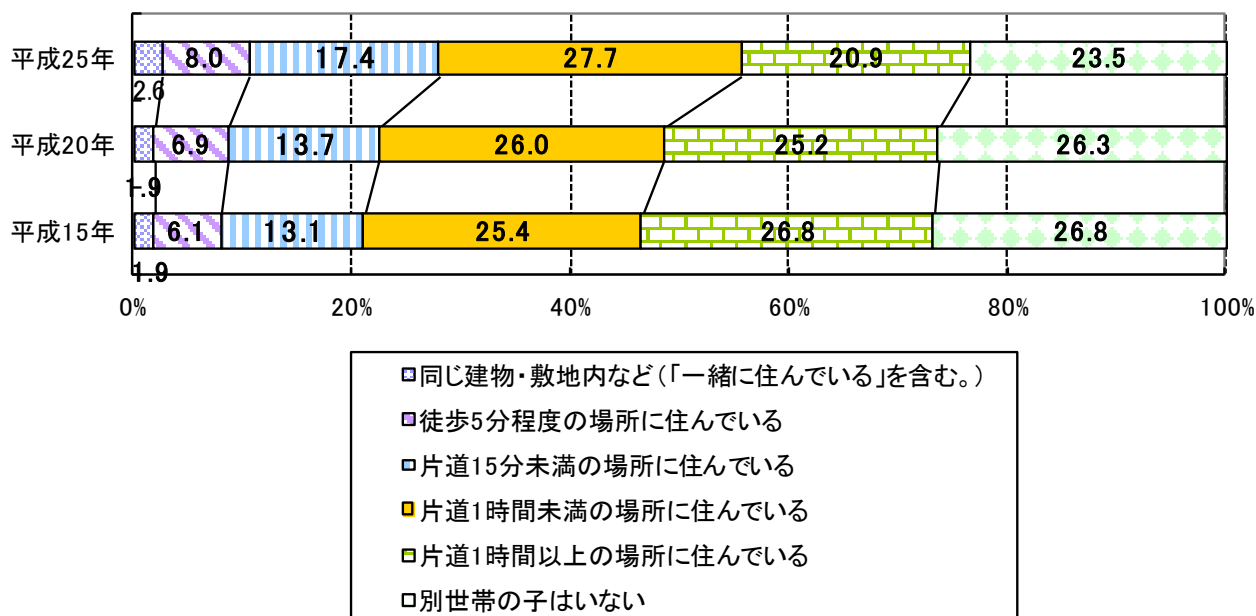
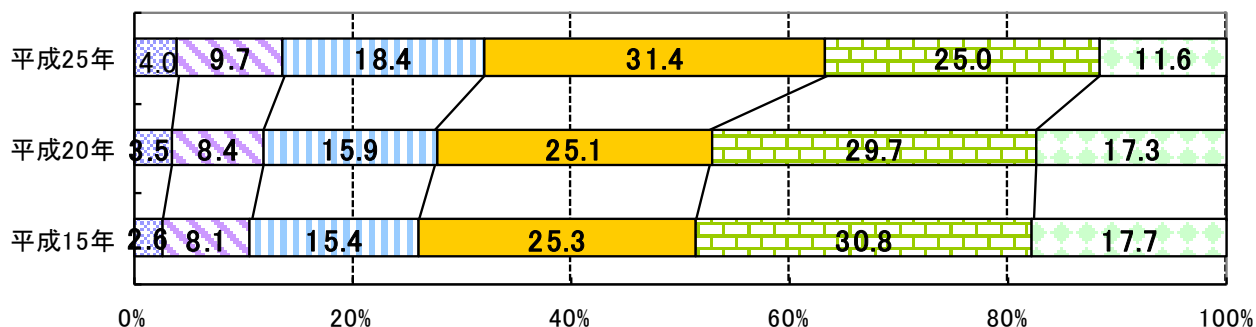


図 30 別世帯の子が住んでいる場所別割合（不詳除く）（平成 15、20、25 年）
【高齢者のいる夫婦普通世帯】



別世帯の子が住んでいる場所についてみると、高齢单身普通世帯（35,100世帯）では（図24）、「同じ建物又は同じ敷地内など」に住んでいる世帯が800世帯（2.6%）、「徒歩5分程度の場所」に住んでいる世帯が2,500世帯（8.0%）で、これに「片道15分未満の場所」に住んでいる世帯5,400世帯（17.4%）を加えると8,700世帯、28.0%となり、単身で生活している高齢者の4人に1人以上が片道15分未満の場所に子が居住していることになる。

また、高齢者のいる夫婦普通世帯（夫婦のいずれかが65歳以上の夫婦のみの世帯45,400世帯）では（図25）、「同じ建物又は同じ敷地内など」に住んでいる世帯が1,700世帯（4.0%）、「徒歩5分程度の場所」に住んでいる世帯が4,100世帯（9.7%）で、これに「片道15分未満の場所」に住んでいる世帯7,800世帯（18.4%）を加えると13,600世帯、32.1%で3世帯に1世帯が片道15分未満の場所に子が

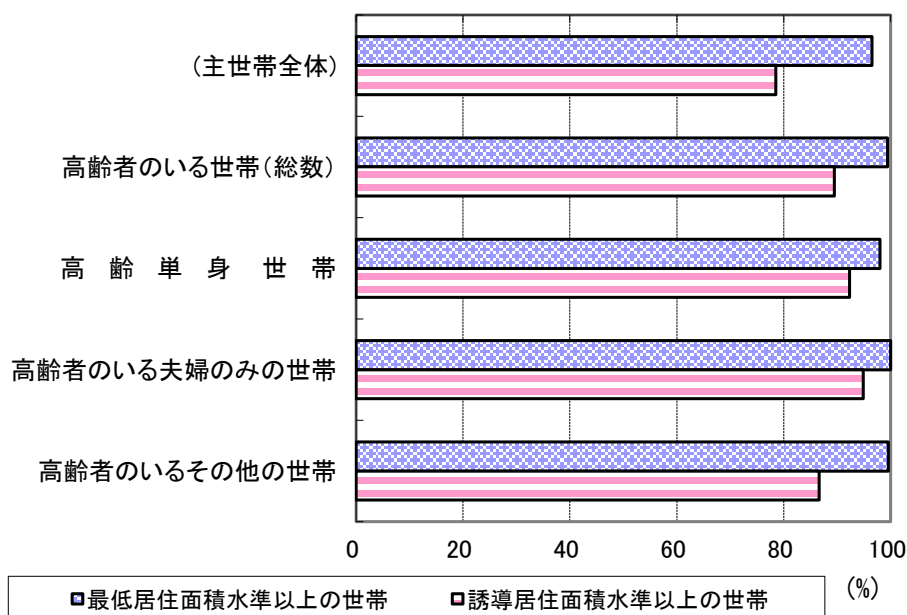
居住していることになる。

15年、20年調査結果と比較すると、高齢单身普通世帯、高齢者のいる夫婦普通世帯とも、子が近くに居住する割合が次第に上昇している。

5 高齢者世帯の居住面積水準

高齢者のいる世帯のうち、誘導居住面積水準以上の世帯はほぼ9割

図 26 高齢者のいる世帯の居住水面積水準以上の割合（富山県：平成 25 年）



居住面積水準以上の世帯割合をみると(図 26)、最低居住面積水準以上の世帯は 99.4%、誘導居住面積水準以上の世帯は 89.5%となっており、主世帯全体(それぞれ 96.5%、78.5%)に比べ、共に高くなっている。このうち高齢单身世帯では、最低居住面積水準以上が 98.0%、誘導居住面積水準以上が 92.3%、高齢者のいる夫婦世帯では、それぞれ 100.0%、94.9%となっている。

一方、高齢者のいるその他の世帯では、それぞれ 99.6%、86.6%と、誘導居住面積水準以上の世帯の割合が他の高齢者のいる世帯に比べ低くなっている。